

災害復旧技術専門家を岩手県一戸町に派遣

公益社団法人 全国防災協会

令和4年8月3日からの大雨による災害に対して、国土交通省水管理・国土保全局防災課長通達（平成26年5月）に基づき岩手県一戸町に2名の災害復旧技術専門家を派遣し、復旧工法などについて技術的助言を行いました。

派遣概要

1.

【気象の状況】

前線上の低気圧が3日朝から昼過ぎにかけて東北地方を通過した。前線や低気圧に向かって、台風第6号を起源とする暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となった。

【大雨の状況】

2日夜から降り始めた雨は、3日未明から次第に強まり、明け方から昼過ぎにかけて激しい雨となった。内陸では一戸町奥中山では最大1時間降水量42.5ミリを観測し通年として観測史上1位を更新した。

2日18時から3日18時までの降水量は、久慈150.5ミリ、葛巻140.0ミリ、久慈市山形137.0ミリ、一戸町奥中山129.5ミリなど、盛岡地域、二戸地域、久慈地域、宮古地域を中心に大雨となり、葛巻、盛岡市好摩における日降水量は8月として観測史上1位を更新するなど記録的なものとなった。（岩手県災害時気象資料、盛岡地方气象台より）

2. 派遣された災害復旧技術専門家（敬称略）

派遣日：令和4年9月21日（水）

派遣者：本田 保恵（戸田建設㈱ 東北支店）
佐々木範喜（岩手ニチレキ㈱）

3. 活動報告（支援・助言内容）

1) 地 先 名：岩手県二戸郡一戸町小鳥谷地先他

2) 災害状況：町道平糠線の道路本体流出1箇所
町道小繫平糠線道路本体損傷等1箇所

3) 助言内容

① 町道平糠線

○原形復旧の盛土+横断管（函）渠の外、橋梁、カルバート橋なども対象に最適な復旧工法を比較検討して下さい。以下、現復旧案に対して

○復旧案は原形復旧と呑口部の埋塞土砂撤去のみとなっていることから、被災原因の除去についても検討して下さい。

○被災原因は、沢（川）の異常出水による土砂流入で、管渠呑口が埋塞状態にあることから、復旧案の呑口部ブロック積から上流の埋塞土砂撤去を河川災で申請することを検討して下さい。

○河川災で埋塞土砂撤去を申請しない場合は、道路災で呑口部の埋塞土砂撤去に加え、土砂流入を防ぐ谷止め工や橋梁、カルバート橋など土砂が詰りにくい工法を検討して下さい。

○埋塞土砂撤去範囲と掘削勾配の根拠について整理して下さい。

○上流側ブロック積は根入れを十分に確保して下さい。

○下流側ブロック積法尻および吐口部は洗堀防止対策（水叩きコンクリート、かご工など）で十分に保護して下さい。

○現道位置に仮橋が設置されているので、施工時の交通確保を検討して下さい。

○現況の舗装構成を説明できる資料を準備して下さい。

② 町道小繫平糠線

○同じ原因による同じ災害の履歴を踏まえ、被災原因を除去する施設の申請を検討して下さい。

- 被災原因が並行する名子根川水衝部からの溢水および路盤への浸水によるものであることから、施設としては、例えば、路面高まで擁壁（ブロック積・重力式等）を施工し、パラペット等で溢流水位まで嵩上げすることで溢水および浸水を防止。
- 施設高となる溢流水位は、名子根川の痕跡等から説明資料の整理が必要。
- 河川からの浸水防止目的の「止水壁」と側溝との関連性を整理し、「止水壁」を申請する場合は必要性の整理が必要。
- 法面崩落箇所は、法面对策・待受擁壁等の必要な対策工の申請も検討して下さい。
(法面被災 2 箇所。被災法面は民地のため用地取得の検討も必要)
- 横断管渠の閉塞土砂撤去の申請も検討して下さい。
- 主たる被災が路面と側溝であることから、適用除外とならないよう路盤の被災深と復旧厚を説明できるよう整理が必要。併せて舗装構成を説明できる資料を準備して下さい。
- 全幅で復旧する理由の整理が必要。例えば、打音等で空洞判定の実施など。
- 健全箇所（中抜区間）と被災箇所（申請区間）の区別化の理由の整理が必要。
- 路盤に水が浸入し舗装が浮いた写真があれば状況説明資料としてなお有効。
- 今回の豪雨による被災であることが判る被災前状況の説明資料が必要。特に終点側工区は写真が在ればベスト。

写真：町道 平糠線



損壊した管渠上部に仮排水管設置



仮橋設置済



流入河川（沢）の埋塞状況

写真：町道 小繁平糠線



並行する河川から溢流箇所



被災状況の確認



被災状況の確認



町長との名刺交換と意見交換



現場調査関係者の紹介